

<総括研究報告>

効果的な親子のメンタルケアに関する研究

主任研究者 松井 一郎¹⁾

要約：親子関係の障害などが関与する小児の疾患（病態）の3課題につき医学・家庭社会病理の視点から分担研究した。1) 虐待の予防に関する研究（松井一郎）、2) 小児心身症に関する研究（星加明徳）、3) 神経性食思不振症児に関する研究（渡辺久子）で、いずれもの課題について医学の問題点解明に加えて、家庭や社会背景の問題点や対応策を考察した。生活環境の変化で家庭・社会病理が不可避免的に進行する中で、これらの疾患の実態把握と解析から対応策を提言した。

見出し語：児童虐待、被虐待児症候群、小児心身症、心身症の背景因子、神経性食欲不振の発生頻度と診断

【研究の背景】

地域社会と小児の生活環境の近年の変化、特に家庭や育児或いは親子関係などは、母子保健の目的である健全育成を円滑に達成し難い方向に進んでいると思われる。子どもや親がこれらの変化に適応できない時には軋轢を生じ、心身の障害を生じ、発達に歪みが生じる。近年とくに問題とされる児童虐待や心身症、登校拒否や引きこもりが目につくのは、親子関係、家庭や生活環境の病理の進行を意味するのであろう。

【研究目的】

本研究は、親子関係がうまく関連する小児の代表的疾患（病態）を指定し、実態把握、医学的要因、家庭環境要因、社会的要因、発生機序を明らかにし、効果的な予防対策、治療方法、対応策を検討する事を目的とし、小児の「心の健康」の医療および行政対応に資する。

1. 虐待の予防に関する研究（松井一郎）

虐待のハイリスク要因の具体的な対応指針を作成し、事例の援助と育児支援で虐待発症を未然に防止する。保健婦の地域活動を中核とし、

1)横浜市・港北保健所 (Kohoku Health Center, Yokohama City Government)

虐待防止に有効な地域（母子保健）システムを構築する。また、家庭支援による再発防止を検討し、関係機関のネットワークを構築する。

2. 小児心身症に関する研究(星加明徳)

小児心身症対応マニュアルを作成し、家族と養護教諭の理解と早期対応に役立てる。背景因子と発症プロセスの解析を継続し、学校と医療機関との連携の円滑化、医療機関でのカウンセリング実態を調査・研究する。

3. 神経性食思不振症児に関する研究(渡辺久子)

10代の本症の発生頻度を調査し、診断基準の検討、予防と治療に役立つ患者プロトコルの開発を研究目的とする。

【研究結果】

1. 虐待予防班

全班員の研究を基盤にして、発症前の虐待ハイリスク支援と虐待発生予防の保健婦活動ハンドブックを作成し、地域（保健所を中心）活動の具体的指針が可能となった。

家庭支援による再発防止策検討の基礎として、虐待家庭の重症度の解析から危険度の定量的評価を検討し数量的評価を行い、保健婦の援助介入の必要性の判断が可能となった。医療・行政・教育の連携による虐待対策モデル（和歌山）で毎年虐待数が増加し、啓蒙効果が示され、援助した虐待ハイリスク家庭での虐待への進行は23%に留まり、予防的対応は有効であった。小児科全国調査から虐待発生は都市部のみならず田舎や僻地でも発生しており、虐待防止の地域システムは全域をカバーする必要がある。

子どもの心の健康づくりの効果的な推進方策

は育児支援・虐待防止のモデル保健所で少産少子化時代のコミュニティ活動を展開することが重要と考えられた。同時に小児期からの人間性・親性（母性、父性）の育成対策が重要である。

2. 小児心身症班

小児科外来で頻度の高い夜尿、チック、夜驚、過敏性腸症候群、不登校、神経性食欲不振症の6種につき家庭用および養護教諭用の対応マニュアルを班員全員協力で作成し、また後者には保健室頻回来室者を中心にどのような場合に医療機関受診を進めるか、不登校の初期対応、ほか対応指針を含めた。

363医療機関（大学病院、こども病院、診療所）の小児医療における外来カウンセリング実態の調査で、小児心身症を担当する1日平均患者数は99名以下で、心身症専門外来では午前または午後の1単位で4名以下、初診に45分から1時間が多かった。

3. 神経性食思不振症班

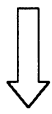
発症頻度の根拠となる痩せ率について、幼児期からの身長・体重による固有の成長曲線に基づく新しい発病スクリーニング法を提案し、78名の女子中学生で妥当性を検討した。その結果、正常群、境界群、異常群の3群に分類され最後の異常群が本性リスク群につながり、摂食行動異常を伴う場合に発病と診断できる。78名中3名（3.8%）が医療機関で本性の診断を受けていた。

プロトコールに関して、思春期の心身発育に関する代謝内分泌機能を検討し項目化した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:親子関係の障害などが関与する小児の疾患(病態)の3課題につき医学・家庭社会病理の視点から分担研究した。1)虐待の予防に関する研究(松井一郎)、2)小児心身症に関する研究(星加明德)、3)神経性食思不振症児に関する研究(渡辺久子)で、いずれもの課題について医学の問題点解明に加えて、家庭や社会背景の問題点や対応策を考察した。生活環境の変化で家庭・社会病理が不可避的に進行する中で、これらの疾患の実態把握と解析から対応策を提言した。